

令和5年5月26日

令和4年度白糠町教育委員会の活動状況に関する
点検評価報告に伴う評価コメント

北海道教育大学釧路校・副学長
玉井 康之

白糠町では、生徒指導の一環として、子供たち自身にいじめ未然防止策を考えさせたり、「子供会議」を通じた自己決定と自己責任のあり方を実感させるなど、子供の自律的行動を高めるように指導している。またふるさと教育を20年前から先進的に推進しており、地域を誇りに思い地域に貢献する力を育成している。さらに学校教育の中にキャリア教育の充実を位置づけており、将来の職業を意識させ、人・社会と関わっていく姿勢を作ることは、生きる力の長期的な涵養を図るものとなる。これらは学習指導要領でも強調される創造力・行動力や人間性の涵養を、全学校教育課程を通じて推し進めるものである。

これらを推進するためには、学校と地域が連携することが重要であるが、白糠町教育委員会が町全体に学校への支援やボランティア活動・青少年育成事業も推進しており、学校と地域が連携しやすい環境を作っている。また学校教育も地域に根ざした学校づくりを大きな柱としており、地域でのビジョンを学校と地域で共有している。ふるさと給食では、ふるさと教育の一環として、地元の農産物・魚産物を活用し、子供に身近な産業と食糧を意識してもらい、食糧生産の意義と産業を子供たちが受け継いでいく必要性を認識させている。この学校と地域の連携を推進するためにも、コミュニティスクールを全校区で実施し、地域の様々なリソースを学校教育に活かせるようにしている。

社会教育では、郷土芸能・文化・芸術・スポーツ活動や家庭教育支援も積極的に進めており、これらが結果的に子供の発達環境を広げていると言える。特にスポーツでは、一人1スポーツを推奨するなど、スポーツと健康づくり、及び、サークルのネットワークを通じたまちづくりを一体的に取り組んでいると言える。子供のスポーツ教室やパークゴルフ大会など、世代を超えて交流し、健康づくりを進める取り組みも豊富に実施している。スポーツ振興のための施設整備に関しても、施設のきめ細かい点検や施設の長寿命化を推進している。スポーツは、本来的に忍耐力・持久力を高めるものであり、全国的に子供の忍耐力・持久力が低下している中で、長期的な生きる力の基盤を作るものとして評価できる。

このように白糠町では、学校教育と社会教育を含めて地域全体で教育活動を取り組むという雰囲気や教育委員会が推進している。この点は、今後の子供の発達環境づくりや地域創生活動の発展を考えても極めて重要な取組であり、今後の教育活動の効果が期待できると言えよう。